41 01 08 04 01 002

事務事業評価表

1．基本事項

作成日　令和03年01月20日（水）

事務事業	交通政策企画調整事務	担当課	都市計画課	担当係	交通政策係	管理番号	4108
第２次総合計画		事業区分	■ 自治事務	□ 法定受託事務 →	対象拡大 有□ サービス拡充 有□		
行政施策分野別名 大項目	200005 快適で利便性の高いまち（都市・生活基盤）	根拠法令個別計画等	県北都市間路線バス維持対策協議会規約等 地方自治法第２４１条				
中項目	200002 交通アクセスの便利なまちづくり						
小項目	200002 公共交通の維持確保と交通安全の推進						

事業概要	市内の公共交通の維持・確保・改善を図るため、以下の取組等を行っている。 ・廃止された民間路線バス代替運行の維持のため負担金を支出し、地域公共交通の確保を図る。 ・市内を走る鉄道の輸送力増強・整備促進を図るため、これを目的とする各協議会に負担金を支出する。
目的 ※何のために	地域公共交通の確保・維持・改善及びこれらの促進。
対象 ※誰・何を対象に	上記目的を達成するために組織された各協議会や運行事業者など。
手段 ※どのように	負担金の支出、基金の積み立ておよび要望活動。
成果 ※何を求めるか	地域住民の移動手段の維持・充実が図れる。
執行体制	■ 市職員　□ 一部委託　□ 全部委託　□ 指定管理　□ 市民ボランティア　□ ＮＰＯ民間団体　■ その他（ 民間事業者など ）

事務事業を構成する予算事業

会計区分	款		項		目		細事業名	前年度決算額（円）
一般会計	08	土木費	04	都市計画費	01	都市計画総務費	鉄道・路線バス利便性向上事業	5,771,230
	00		00		00			0
	00		00		00			0
	00		00		00			0
	00		00		00			0

本事業の主な業務

・ 総合的な公共交通政策	・ 県北都市間路線バス維持対策協議会
・ 鉄道事業者に対する要望	・ 深谷市鉄道駅バリアフリー化設備整備事業
・ 高崎線輸送力増強推進協議会	・
・ 秩父鉄道整備促進協議会	・
・ 秩父鉄道再生支援協議会	・
・ 東上線複線化促進期成同盟会	・

2．事業費（投入コスト）

単位：円

区分			平成29年度	平成30年度	平成31年度	令和2年度	令和3年度	
年度別計画			鉄道事業者に対する負担金 県北都市間バス対策協議会負担筋 深谷市鉄道駅バリアフリー化補助	鉄道事業者に対する負担金 県北都市間バス対策協議会負担筋	鉄道事業者に対する負担金 県北都市間バス対策協議会負担筋	鉄道事業者に対する負担金 県北都市間バス対策協議会負担筋	鉄道事業者に対する負担金 県北都市間バス対策協議会負担筋 （新）バリアフリー基本構想策定	
事業費	予算（現額）		13,885,000	5,804,000	5,812,000	8,853,000	8,974,000	
	決算額		13,274,026	5,796,826	5,771,230	0	0	
	財源内訳	国支出金	0	0	0	0	0	
		県支出金	3,500,000	0	0	0	0	
		地方債	0	0	0	0	0	
		他特定財源	0	0	0	0	0	
		一般財源	9,774,026	5,796,826	5,771,230	8,853,000	8,974,000	
人件費	従事職員数（人）		0.35	0.44	0.29	0.42	0.42	
	人件費相当試算 ※１		2,722,650	3,424,080	2,279,690	3,422,160	3,422,160	
			0	0	0	0	0	
（総事業費試算）			15,996,676	9,220,906	8,050,920	12,275,160	12,396,160	

※１　人件費相当額試算は、従事職員数に平均人件費を用いて試算したものです。

事務事業評価表

３．評価指標

グラフ表示	区分	指標名	目標値／実績値	単位	平成29年度	平成30年度	平成31年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	目標なし
□	活動指標１	県北都市間路線バス維持対策協議会に係る補助額	目標値	千円							■
			実績値		3,600.00	3,600.00	3,600.00	3,600.00	3,600.00	3,600.00	
		年度別目標値の設定根拠		協議会で補助額を決定するため目標値の設定になじまない							
		深谷市の補助額									
□	活動指標２	秩父鉄道整備促進協議会に係る特別負担金	目標値	千円							■
			実績値		2,096.00	2,101.00	2,102.00	51,333.00	51,333.00	51,333.00	
		年度別目標値の設定根拠		協議会で負担額を決定するため目標値の設定になじまない							
		深谷市の負担額									
■	成果指標１	深谷・寄居線の年間運行本数	目標値	便							■
			実績値		3,650.00	3,650.00	3,650.00	3,650.00	3,650.00	3,650.00	
		年度別目標値の設定根拠		現状の運行本数維持を目標とする。							
		１日運行本数×年間運行日数									
■	成果指標２	秩父鉄道運行本数	目標値	本							■
			実績値		29,845.00	29,854.00	29,885.00	0.00	0.00	0.00	
		年度別目標値の設定根拠		実績値は、計画ダイヤの運行本数とした。							
		武川駅									
□	成果指標３	民間路線バスの年間利用者数	目標値	千人							■
			実績値		190.53	79.30	41.40	0.00	0.00	0.00	
		年度別目標値の設定根拠									
		（市内の民間バス３路線の合計）									
■	成果指標４	秩父鉄道の年間利用者数	目標値	千人							■
			実績値		16,130.56	15,942.46	15,657.21	0.00	0.00	0.00	
		年度別目標値の設定根拠									
		（路線全体の利用者数）									

４．観点別評価　（A：目標値どおり（以上）　B：ほぼ目標値どおり　C：目標未達成　ー：目標値の設定がないもの）

活動 （意図した活動を行っているか）	-	目標が設定できないものは、活動指標の数値の推移を説明 県北都市間路線バス維持対策の協議会補助金が年額３，６００千円を推移しており、現状を維持している。
成果 （意図した成果が上がっているか）	-	目標が設定できないものは、成果指標の数値の推移を説明 県北都市間路線バスの運行本数が現状を維持している。
効率性 （効率的に事務を行っているか）		目標が設定できないものは、効率指標の数値の推移を説明

評価者	交通政策係　新井　一富

５．前年度改善改革プラン達成状況

前年度 改善・改革案	民間路線バス（国際十王交通）籠原駅－深谷日赤線が平成３０年１０月に廃線となった。平成２７年４月１日からの新運行において、深谷市コミュニティバス「くるリン」と、鉄道（秩父鉄道）並びに民間バス２社（武蔵観光バス、国際十王交通）との乗り継ぎ割引制度を構築でき本割引制度の利用回数も日を増すごとに増加していたが、交通ネットワーク全体としては利用者数の確保が難しい状況であった。今以上に鉄道、民間バスの更なる利用者数増加を目指したい。
達成状況 及び その効果	民間路線バス（国際十王交通㈱　籠原駅－深谷日赤線）が平成３０年１０月に廃線。その後、民間路線バス（国際十王交通㈱　籠原駅－深谷駅線）が令和２年３月３１日に廃線となった。交通ネットワーク全体としては利用者数確保が難しい状況であり公共交通の維持存続も厳しい状況となっている。公共交通への定着を図り今以上に鉄道、民間バスの更なる利用者数増加を目指したい。

事務事業評価表

６．所属長評価（今後の方向性）

事務事業	交通政策企画調整事務	担当課	都市計画課	担当係	交通政策係	管理番号	4108

■ ① 現状のまま継続
□ ② 見直して継続 → □ 委託化等の検討 / □ 成果向上のための改善 / □ 効率化のための改善 / □ 事業規模の縮小 / □ 他の事務事業と統合
□ ③ 拡充・重点化（コスト投入）
□ ④ 目的達成による終了
□ ⑤ 廃止を検討

評価の内容説明

利用者が年々減少する実情を踏まえ、補助金、負担金が今後高騰する可能性もある。現状としては例年並みを推移していることを評価したい。令和２年４月より民間路線バス（深谷観光バス㈱　籠原駅－深谷日赤線）が運行開始となる。今後は更なる廃線を生じさせないよう運行本数の維持・確保を行うことが重要である。

評価者	都市計画課長　吉田　稔

上記を実施するための具体的な取り組み内容は？

７．改善改革プランと今後の課題

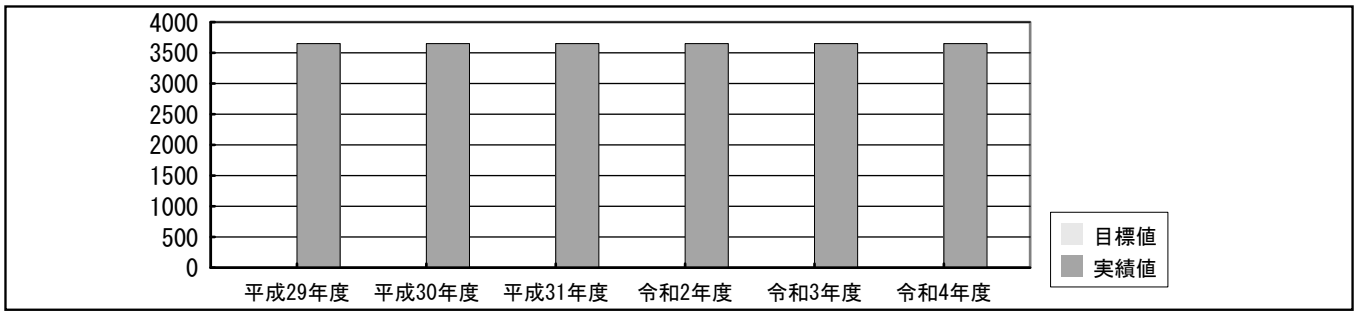
改善・改革案	民間路線バス（国際十王交通㈱　籠原駅－深谷日赤線）が平成３０年１０月に廃線。その後、民間路線バス（国際十王交通㈱　籠原駅－深谷駅線）が令和２年３月３１日に廃線となった。交通ネットワーク全体としては利用者数確保が難しい状況であり公共交通の維持存続も厳しい状況となっている。一方で、令和２年４月より民間路線バス（深谷観光バス㈱　籠原駅－深谷日赤線）が運行開始となる。沿道企業の支援を受け運行開始する運びとなった。この様なモデルケースを増やし、公共交通の地域定着を図りたい。

８．今後の課題(年度別計画等により実施する取り組み等)

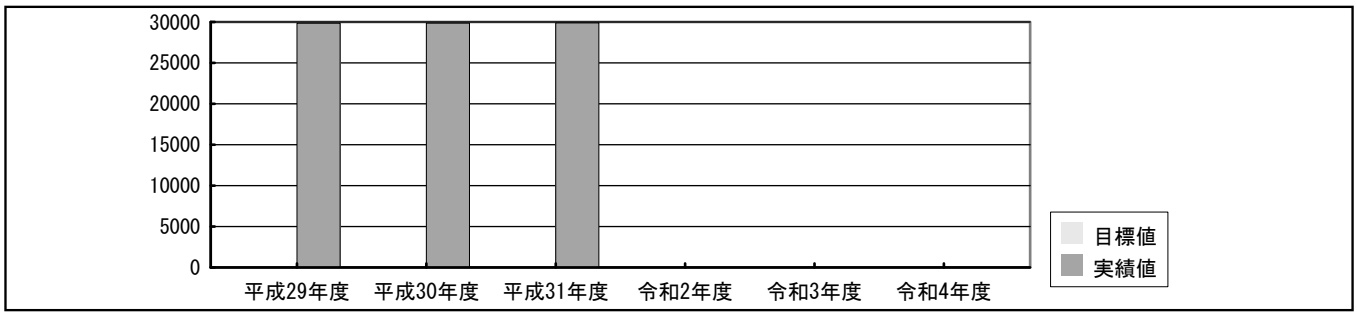
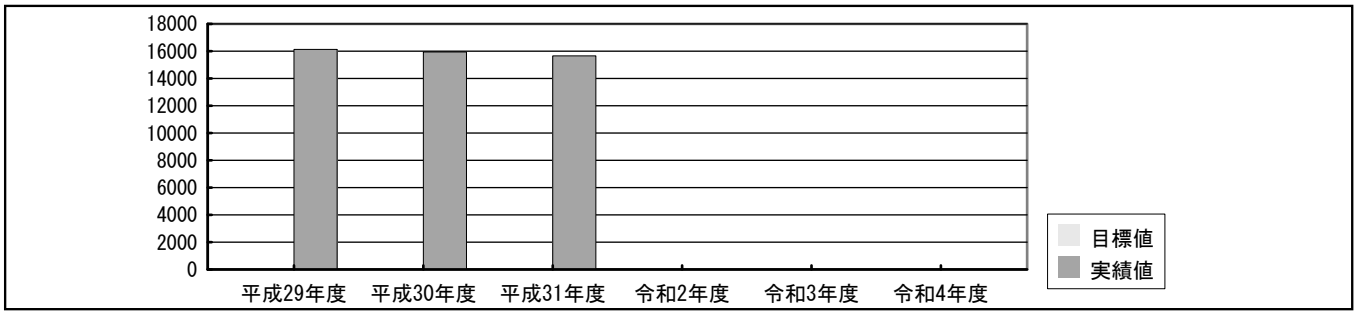
今後の課題	民間路線バスの改編により交通空白地域も生じることとなる。この様な地域に市民の足の確保の観点から、デマンドバスによる代替輸送を効率的に実施して行きたい。

９．評価指標グラフ

区分	成果指標１	指標名	深谷・寄居線の年間運行本数



区分	成果指標２	指標名	秩父鉄道運行本数



区分	成果指標４	指標名	秩父鉄道の年間利用者数